

市民意識を反映した景観デザインの制作とその評価に関する研究

前橋工科大学 学生会員 ○神野 勇輝 工学院大学 吉岡 拓真
工学院大学大学院 平山 絢健 工学院大学 牛田 啓太
前橋工科大学 正会員 森田 哲夫

1. はじめに

(1) 研究の背景

地方都市の持続には、市民の愛着と主体的な関与が不可欠である。公共空間整備においても、市民の価値観を反映し「自分たちの場所」という当事者意識を醸成するプロセスが重要であるとされている。現在、群馬県太田市で進行中の金山再生計画においても、この大規模事業を市民に身近なものとするため市民意識をデザインに反映させる手法が求められている。

(2) 研究の目的

本研究は、市民意識を事前調査によって抽出し、その結果をワークショップ（以下 WS）に組み込むデザイン手法を実践する。そしてこの方法を経て制作された景観デザインの市民意識の反映状況を定量的に検証することを目的とする。これにより、市民意識を景観に反映させる手段を実証し、今後の市民参加型まちづくりにおける有効な合意形成手法を提案することができると思う。

(3) 既存研究と本研究の位置づけ

市民意識を景観デザインに取り入れる手法¹⁾や完成した景観デザインを評価する手法²⁾については数多くの既存研究が見られるが、WSに参加しない多くの市民の市民意識を抽出し、景観デザインへと実装し最終的にそのデザインが市民意識を反映したものになっているか検証するといった研究は見られない。本研究は、アンケートによる市民意識の抽出からWSでの具現化・完成したデザインに対する市民の評価までを一つの流れとし、市民の意識をデザインに落とし込む手法を実証する点において新規性がある。これは従来のWSの課題を克服し市民の価値観を反映した景観形成に貢献する手法となる。

2. 研究方法

(1) 研究の構成

図1の流れにより研究を行う。

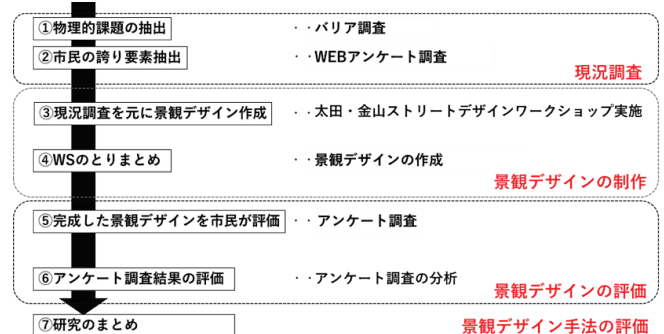


図1 研究フロー

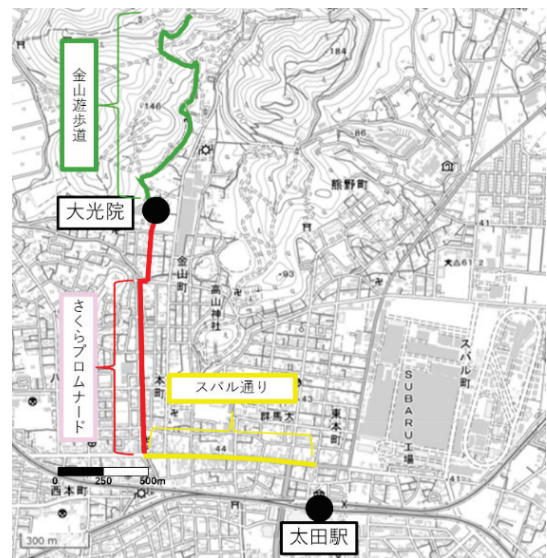


図2 研究対象区間

(2) 研究対象地域

図2に研究対象区間を示す。金山遊歩道の区間においては、2024-25年度地域・交通計画研究室と株式会社山梅が共同で研究を行った区間を対象とする。

(3) 分析方法

現況調査を踏まえ金山ストリートデザインWSを開催し、景観デザインの制作を行う。作成した景観デザインをWS参加者や通行人が評価し、評価結果を単純集計により景観デザインの手法の有用性を明らかにする。

3. 現況調査

物理的課題の抽出としてバリア調査を行い、対象

表 1 調査概要および質問項目

区分	項目	内容
調査概要	調査期間	2025年10月1日～10月14日
	調査方法	インターネットモニター調査(Freeasy)
	有効回答数	87票
質問項目	属性(Q1,Q2)	居住地、通勤・通学先(旧市町名単位)
	誇りの要素(Q3～Q8)	「自然」、「歴史・文化」、「祭り・行事」、「産業」、「食べもの」、「観光・スポーツ」の誇りを自由記述
	誇りに思う項目の選択	「自然」、「歴史・文化」、「祭り・行事」、「産業」、「食べもの」、「観光・スポーツ」から選択

表 2 各カテゴリの「誇り」頻出 TOP3

カテゴリ	1位	2位	3位
自然	金山(29回)	自然(10回)	公園(5回)
歴史・文化	新田義貞(19回)	城(7回)	金山(6回)
祭り・行事	祭り(30回)	ねぶた(18回)	尾島(11回)
産業	SUBARU(49回)	自動車(21回)	富士重工業
食べ物	焼きそば(50回)	焼き饅頭(11回)	大和芋(9回)
観光・スポーツ	バスケットボール(22回)	クレインサンダース(13回)	群馬(6回)

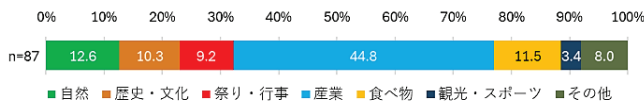


図 3 最も誇りに思う項目の回答割合 (n=87)



図 4 第 1 回 WS の様子



図 5 第 2 回 WS の様子

区間における 32ヶ所物理的なバリアを明らかにし、市民の誇り要素抽出するため WEB アンケート調査を行った。表 1 はアンケート調査の詳細である。表 2, 図 3 は調査結果である。

4. 活動内容

(1) 金山ストリートデザイン WS の開催

現況調査の内容を基に、太田・金山ストリートデザイン WS を 2 回実施し、景観デザイン製作を行う。1 回目の WS では物理的課題の要素、誇りの要素、金山再生 WS 提案の内容を解説しデザイン制作のために意見交換を行い、景観デザイン案を検討した。2 回目の WS では制作した景観デザインの前案に対して参加者が評価した。図 4, 図 5 は WS の様子である。

(2) 景観デザインの制作

2 回の WS の内容を踏まえて景観デザインの制作を行う。対象区間においてポスター形式で作成し、それぞれにコンセプトを記載した。図 6 は制作した景観デザインである。

(3) 八瀬川よりみちデザイン展の開催

作成した景観デザインに対し、展示イベントにて

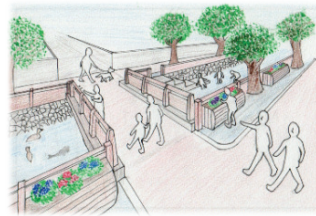


図 6 制作した景観デザイン

表 3 評価アンケート項目

評価	評価項目
評価性 (デザインの全体的な良し悪し)	・好きだ-嫌いだ ・美しい-汚い ・調和がとれている-とれていない
快適性・機能性 (空間の使いやすさや居心地)	・歩きやすい-歩きにくい ・安全だ-危ない ・すっきりした-ごたごたしている
地域性・誇り (太田市らしさ, 誇り)	・個性的だ-ありきたりだ ・風情のある-風情のない ・誇りを感じる-誇りを感じない

来場者による評価を行う。評価手法には SD 法を用い、以下の 3 因子について 7 段階評価を求め本研究の仮説の検証を行う。評価内容を表 3 に示す。

5. まとめ

景観デザイン手法の実証のため、現況調査を行い、その内容をもとに太田・金山ストリートデザイン WS を開催し景観デザインの制作を行った。展示会にて景観デザインの評価を行い評価結果から景観デザイン手法の有用性を検証することが今後の課題である。

参考文献

- 川島正嵩, 横内憲久, 岡田智秀: 景観計画策定過程における WS 手法導入に関する研究—既往研究の系譜を通じて—, 景観・デザイン研究講演集, No. 6, pp. 197-204, 2010
- 藤居良夫: 景観デザインの数量的評価の一手法, 農業土木学会誌, 第 62 巻, 第 8 号, pp. 723-728, 1994